

(3) 骨材

新潟県

記事提供：(一社)新潟県砂利碎石協会

新潟県における平成29年度1月～3月期の骨材需給は、前年度同期と比較して、公共事業が横ばいの中、再生骨材の優先使用によりバージン材利用の減少が続いているため、県計では、出荷量で7%減、生産量で12%減となった。

地区別に前年度同期比で見ると、上越地区では、出荷量で12%増、生産量で16%増、中越地区は、出荷量が7%減、生産量で20%減、下越地区は、出荷量が11%減、生産量で13%減、佐渡地区は、出荷量で24%減、生産量で19%減となった。

平成29年度通期の累計では、公共工事や再生材の優先使用などによる需要の低迷が続いており、対前年度比、出荷量は同程度、生産量は4%減となり、3月末の在庫量は7%減となった。

富山県

記事提供：富山県土石業協同組合連合会

富山県における平成29年度平成30年1月～3月期の骨材の需給は、前年同期に比べて、県全体では出荷量は12%減、生産量は12%減と、いずれも前年度を下回った。また、前期(平成29年10月～12月期)比では、出荷量は27%減、生産量は24%減となった。

地区別の前年同期比では、東部地区は出荷量が18%減、生産量が17%減、西部地区においても出荷量が6%減、生産量が7%減と、両地区とも前年を下回る結果となった。

これは、両地区とも公共事業量が大幅に減少していることに加え、特に当期は生産、出荷ともに数年ぶりの大雪の影響を受けているものと考えられる。

3月末在庫量は、前期末(平成29年度12月末)より、東部地区では4%減に、西部地区では11%減に、県全体では5%減となった。

なお、平成29年度通期では、前年度に比し年間出荷量は、東部地区が16%減、西部地区が6%減、県全体では11%減、年間生産量は、東部地区が15%減、西部地区が5%減、県全体では9%減となり、この結果年度末在庫量の前年同期比は、東部地区20%減、西部地区7%減、県全体で17%減であった。

石川県

記事提供：石川県骨材協同組合連合会

石川県における平成29年度1～3月期の骨材(県内産)の需給状況は、1・2月の37年ぶりの記録的な豪雪が骨材製品の生産と運搬に大きな影響を及ぼしたため、加賀地区の各地区の出荷はほとんどが大きく数字を落としたが、唯一好調な南加賀地区の北陸新幹線需要が全体を押し上げ、僅かながらも5期連続の増加を維持した。一方能登地区も前期に引き続き増加となったことから、県計全体の出荷量は前年同期と比べて2%の増加となった。なお平成29年度の県計全体における出荷の年間通期累計は前年度比で21%の大幅な増加となった。

1～3月期の地区別の出荷量の比較では、加賀地区は、陸砂利・川砂利は5%の増加を確保したが、同地区の山砕石が6%の減少となったことから、総じて加賀地区の出荷量は前年同期と比べて僅か1%の増加に止まった。また能登地区は、依然として県外からの流入材に押されているものの、今期は量的には少ないが前年同期比で50%の増加となった。

その今期のお荷量の内訳を見ると、加賀地区の主要生産地である手取川扇状地産の陸砂利と川砂利については、主要な需要先である生コン業者向けのお荷は、大口需要の金沢地区が依然として低調な状況が続いているため前年同期比で24%の減少となったが、南加賀地区は北陸新幹線関連工事の特需が本格化して高水準のお荷が続いているため今期も豪雪の状況の中、前年同期比で56%の増加となった。また、アスファルト合材業者向けのお荷は、冬期の閑散期であるが1%の増加となった。この結果、総じて今期のお荷地区における手取産陸砂利と川砂利の全体のお荷は、前年同期比で5%の増加となった。なお平成29年度のお荷地区の手取産陸砂利と川砂利におけるお荷の年間通期累計は、新幹線特需により前年度比で26%の大幅な増加となった。

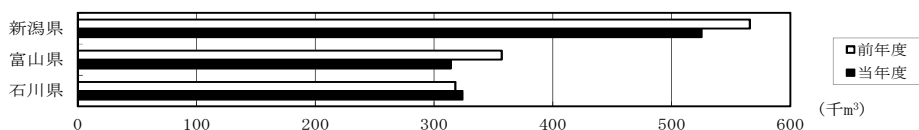
一方、路盤材を主体とする加賀地区の山砕石は、今期も当初は北陸新幹線関連工事の需要等により増加基調にあったが、その後豪雪の影響を大きく受け、逆に前年同期比で6%の減少となった。ただし平成29年度の年間通期累計では8%の増加となった。

また能登地区の山砕石については、今期は前年同期比で50%の増加となったものの、やはり実質的な販売量は県外からの流入材に押されて依然として少ない。また平成29年度の年間通期累計では24%の増加となったが、この地区の地場産業者の需要環境は、依然として厳しい状況が続いている。

生産量については、今期は加賀・能登地区ともに豪雪の影響もありお荷量に応じた生産体制をとっており、県計では前年同期比で5%の増産となった。また生産量の平成29年度の県計全体における年間通期累計でも22%の増産となった。

在庫量は、今期も加賀地区の陸砂利と川砂利の在庫がお荷の急増により減少傾向にあるため、県計全体の前年同期比では3%の減少となった。

骨材出荷量の推移（1月～3月期）



(単位：千m³、%)

県	地区	区分	平成28年度 年計	平成29年度				
				4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	累計
新潟県	上越	出荷量	▲1 715	▲1 182	14 248	12 249	12 104	10 783
		生産量	▲4 708	▲2 195	10 248	5 239	16 64	5 746
		在庫量	▲4 210	▲4 224	▲8 224	▲14 214	▲18 173	▲18 173
	中越	出荷量	▲10 1,110	1 278	0 340	▲12 310	▲7 134	▲4 1,062
		生産量	▲14 1,118	▲6 281	▲3 344	▲9 290	▲20 115	▲8 1,030
		在庫量	2 362	▲3 365	▲6 369	▲5 345	▲10 327	▲10 327
	下越	出荷量	▲15 1,250	▲3 287	0 301	3 385	▲11 248	▲2 1,221
		生産量	▲20 1,290	10 328	▲11 298	▲12 326	▲13 250	▲7 1,202
		在庫量	5 702	12 743	6 740	▲2 681	▲3 684	▲3 684
	佐渡	出荷量	▲12 206	29 45	▲7 53	2 64	▲24 39	▲2 201
		生産量	▲6 205	18 45	▲14 49	▲2 61	▲19 39	▲5 194
		在庫量	▲2 46	▲8 46	▲16 42	▲19 39	▲15 39	▲15 39
	県計	出荷量	▲10 3,281	0 792	3 942	7 1,008	▲7 525	0 3,267
		生産量	▲14 3,321	2 849	▲4 939	▲7 916	▲12 468	▲4 3,172
		在庫量	2 1,320	4 1,378	▲1 1,375	▲5 1,279	▲7 1,223	▲7 1,223
富山県	東部	出荷量	▲19 814	▲6 179	▲20 180	▲18 188	▲18 137	▲16 684
		生産量	▲26 760	▲3 179	▲11 180	▲27 155	▲17 132	▲15 646
		在庫量	▲65 199	▲19 199	▲11 199	▲68 166	▲20 160	▲20 160
	西部	出荷量	6 889	▲8 197	▲9 224	1 242	▲6 177	▲6 840
		生産量	2 876	▲3 194	▲9 226	1 244	▲7 172	▲5 836
		在庫量	▲37 42	▲9 40	▲7 42	▲24 44	▲7 39	▲7 39
	県計	出荷量	▲8 1,703	▲7 376	▲14 404	▲9 430	▲12 314	▲11 1,524
		生産量	▲13 1,636	▲3 373	▲10 406	▲12 399	▲12 304	▲9 1,482
		在庫量	▲62 241	▲18 239	▲10 241	▲64 210	▲17 199	▲17 199
石川県	加賀	出荷量	8 1,216	31 339	23 381	28 427	1 318	20 1,465
		生産量	4 1,192	32 350	23 372	31 416	5 320	22 1,458
		在庫量	▲14 150	▲12 161	▲13 152	▲11 141	▲5 143	▲5 143
	能登	出荷量	▲5 21	17 7	- 5	0 8	50 6	24 26
		生産量	4 24	17 7	20 6	0 8	40 7	17 28
		在庫量	60 8	60 8	80 9	29 9	25 10	25 10
	県計	出荷量	7 1,237	31 346	23 386	28 435	2 324	21 1,491
		生産量	4 1,216	31 357	23 378	30 424	5 327	22 1,486
		在庫量	▲12 158	▲10 169	▲11 161	▲9 150	▲3 153	▲3 153

(注)・上段は前年同期との比較

・集計は、新潟県
会 員104社のうち104社

富山県
会 員86社のうち86社
非会員 1社のうち 1社

石川県
会 員21社のうち21社 (委託加工業者含む)
非会員16社のうち9社
(本データは、陸砂利・川砂利及び山砕石の数量である。)